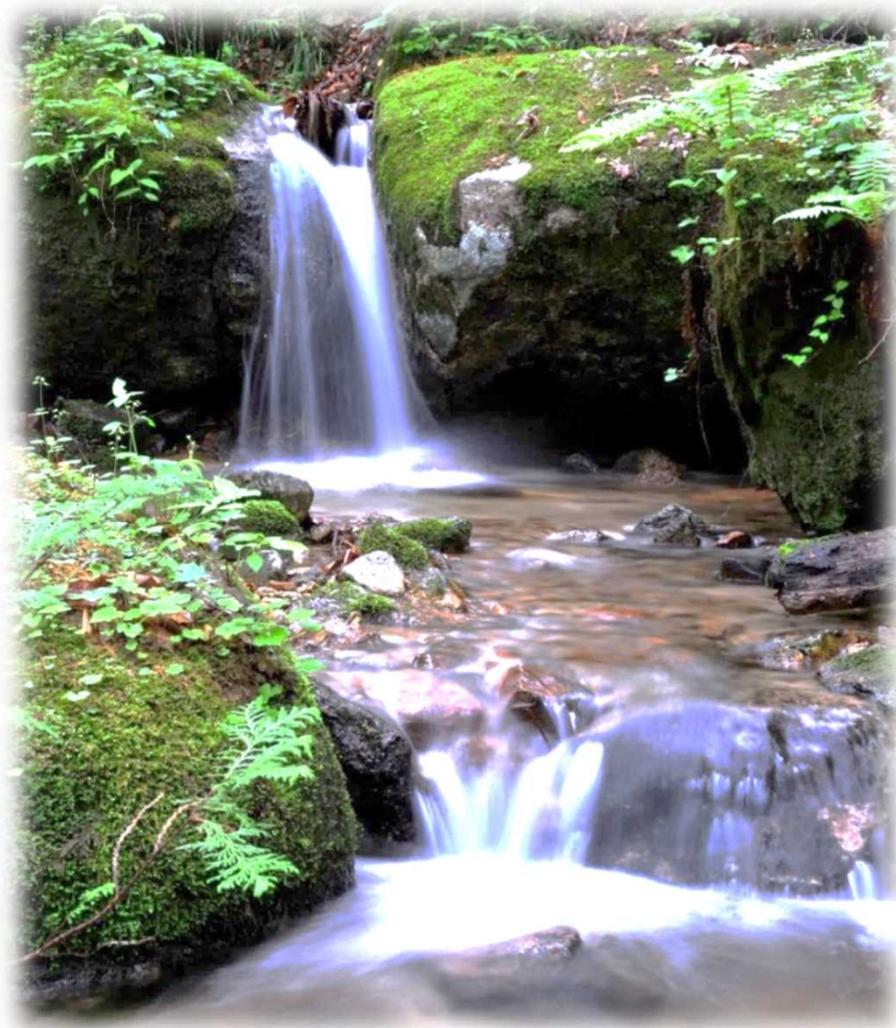


持続可能な上下流交流事業の展開



平成の名水百選 水木沢天然林



ヒノキやカラマツの間伐材を
活用した木のおもちゃ

木曾川の水がうまれる

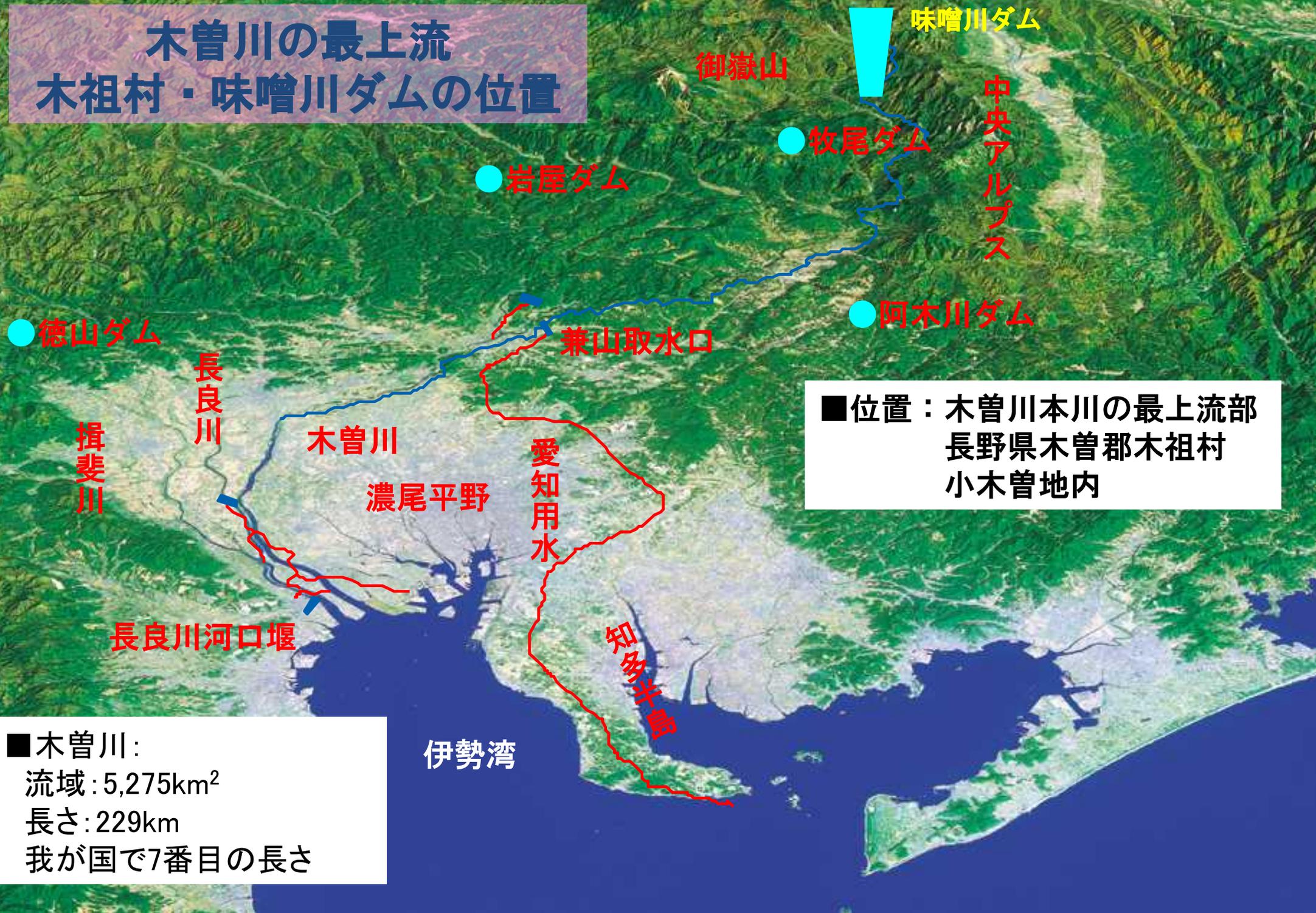
源流の里

信州・木祖村

2023 水源地域未来会議
(森林環境譲与税の活用展開)

木祖村長 奥原 秀一

木曽川の最上流 木祖村・味噌川ダム



■位置：木曽川本川の最上流部
長野県木曽郡木祖村
小木曽地内

■木曽川：
流域：5,275km²
長さ：229km
我が国で7番目の長さ

■木祖村はこんな村■

◆木曾川最上流に位置する2,000m級の山々に囲まれた農山村。
人口2,601人 高齢化率40%越え
(令和5年6月1日現在)

◆高原野菜「御嶽はくさい」の産地。
標高1,000m以上の畑で育つ
トウモロコシも甘くて人気。

◆お六櫛や画材などの木工産業が近年見直されつつあるが、職人が年々少なくなり、担い手が育たない状況。

◆夏は「こだまの森」でキャンプやスポーツ等のアウトドア、冬は「やぶはら高原スキー場」でスキー・スノーボード等のレジャー、また、日本遺産に認定された「中山道鳥居峠」「水木沢天然林」等のトレッキング、ダム湖カヌー体験など自然資源を活かした観光に力を入れている。

味噌川ダム



■木祖村の現状

日本の多くの自治体と同じく

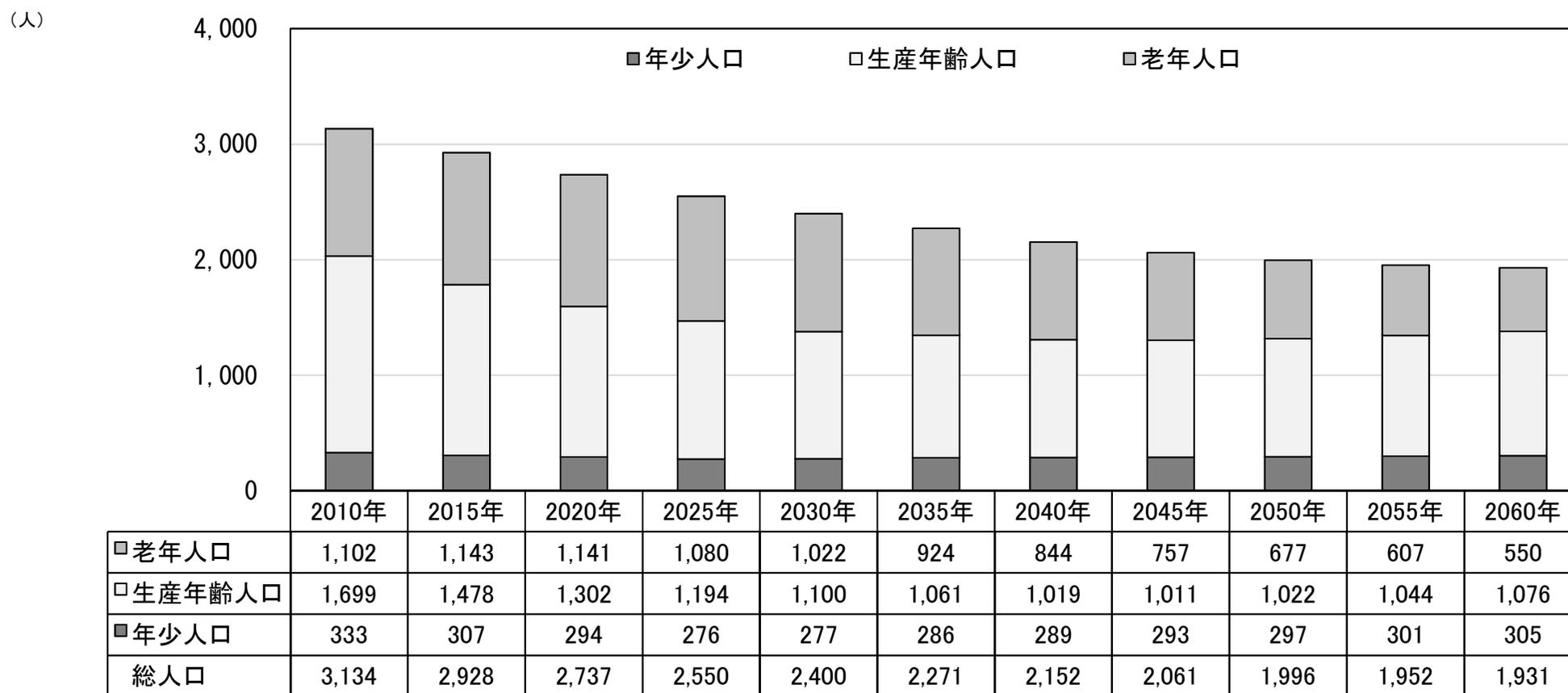
- 人口減少・少子高齢化
- 農林業・観光業の衰退、経済活動の停滞
- 厳しい財政状況 etc…

**担い手不足や資金不足から森林整備が遅れ、山が荒廃しつつある。⇒豊かな水資源環境が失われる…。
周囲の景観も乱れ、農作物の野生鳥獣被害も増えてしまい、遊休荒廃農地が増加傾向にある。**

■木祖村の人口推移と今後■

日本全体の人口が減少する中、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、本村の人口は2060年に**1,480人まで減少**すると予測されています。

この人口減少を抑制するため、若い世代の結婚・出産・子育ての支援を充実し、合計特殊出生率の向上、転入者数の増加、転出者数の減少に取り組み、2060年の**総人口1,931人を目指して**いきます。



木祖村第5次総合計画より抜粋

■これまでの、そしてこれからの木祖村は…？

近隣市町村との合併はせず

「自主・自立」の村づくりを遂行中！

他の自治体には無い、木祖村独自の取組みへ！

「豊かな水と緑に育まれた木曾川源流の里

水資源を子どもたちに受け継ぐ」ために

木祖村での仕事づくり = 働く場の確保

木祖村への新しい人の流れを呼び込む = 移住定住

そのために…

木祖村名古屋出張所の開設

木曽川上下流交流事業を円滑かつ積極的に推進することを目的に、名古屋市内の民間会社の一角を借用し「木祖村名古屋出張所」を開設。

きっかけは鷺見利幸（すみとしゆき故 スミ設備会長）氏とのつながりの中で、「自分たちが飲む水道水の源である村の環境を守りたい」との思いから、これを縁に水道関係をはじめ多くの企業や団体がカエデの植樹活動に参加するなど、木祖村への想いを寄せていただいた。

その後「どんぐり募金活動」という形で更に多くの企業や個人が集まり、木祖村への支援の輪を拡げていただいた。

それに呼応する新たな経済交流の形として木祖村アンテナショップは産まれた。



木祖村名古屋出張所

平成20年4月～平成24年3月

〒457-0805 名古屋市南区 (株)スミ設備内

平成24年4月～

〒466-0044 名古屋市昭和区桜山町6-104-37
さくらやま一けっと2F

平成27年4月～ 同上1F (ショップ併設)

木祖村アンテナショップ

平成20年11月昭和区桜山商店街店舗
「さくらやまーけっと」内に、「木祖村
アンテナショップ」がオープンしました。



27年から木祖村観光協会が運営主体
平成28年4月2日 優しい木の香る
お店へリニューアルオープンしました。

「源気屋桜山店」 名古屋市昭和区桜山6-104-37（木祖村名古屋出張所も併設）

木祖村アンテナショップ改装後（現在）



上下流が連携した水源地域保全活動

木祖村と日進市



主な経過

- S59.1 木祖村商工会青年部日進町訪問
- S62.9 日進町商工会青年部木祖村訪問
- H 1.10 両商工会姉妹提携
- H 4.4 友好自治体提携
- H 5.4 「平成日進の森林」分収造林事業調印
- H14.5 友好自治体提携10周年記念植樹祭
- H19.10 友好自治体提携15周年記念育樹祭
- H24.5 友好自治体提携20周年記念育樹祭

「平成日進の森林」分収造林事業

32haの国有林にヒノキ約10万本を植林

期間：1993年(H5)～2073年(80年間)

分収割合：日進市7割、国3割

四者協定の締結

日進町(市)：「森づくり基金」設立、造林
藪原営林署(木曽森林管理署)

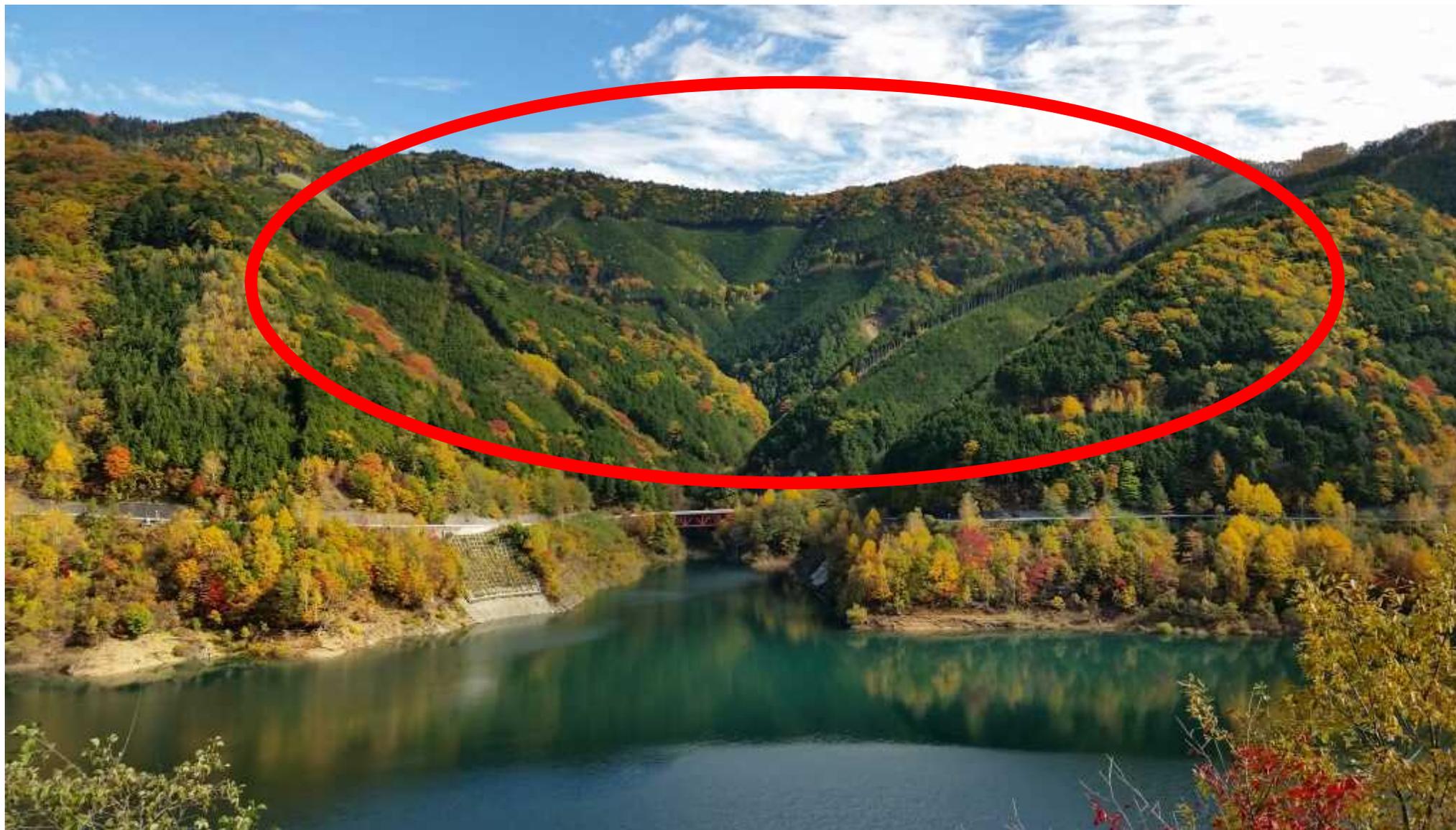
：造林地32haの提供

木曽森林組合：造林作業の受託

木祖村：造林作業の監督、検査、報告



秋の味噌川ダムと平成日進の森林



間伐材の有効利活用



源流図書館 書架



工作用 椅子



保・小・中学校 机と椅子



木のおもちゃ

森林環境譲与税の積極的な活用①

森林の間伐や林業の人材育成、担い手確保、木材利用の促進や啓発等の「森林整備及びその推進」を図ることを目的に制度が創設された。

木祖村には、令和元年度は約4,400千円、2年度は約9,400千円交付され、木曽広域連携事業として森林整備を実施するための森林経営管理推進制度へ一部を充当した。

また木祖村福祉施設建設（新築工事）に伴い、地域材を使用する**木製サッシ部分**の事業費の一部へ充当した。



森林環境譲与税の積極的な活用②

森林環境譲与税は森林のない都市部にも交付されることから、木曽川の上流域である木曽地域では広域連携事業として木曽川の水を享受する下流域へ、「森林整備」「木材利用」などに譲与税を活用いただくよう、木曽川上下流交流の新たな仕掛けづくりをスタート。

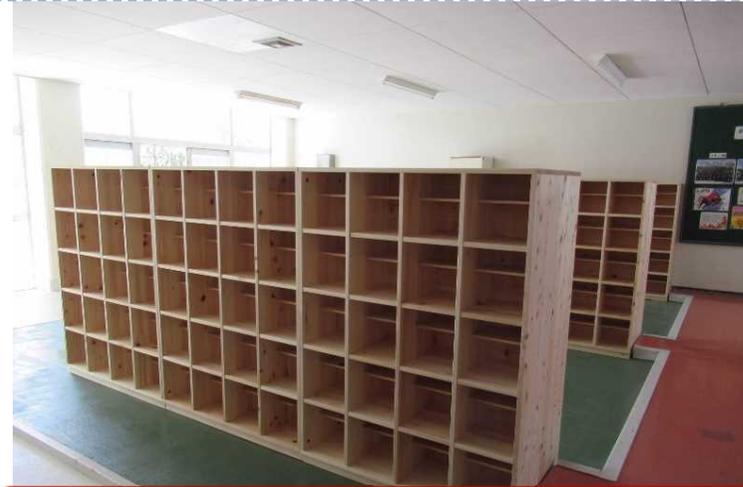
子どもの出産祝いに木のおもちゃをプレゼントする「ウッドスタート」の推進や、公共施設の木質化に木曽の木材を利用していただく、また森林整備や景観整備費用への充当など上流域と下流域が連携して森林環境を保全していくために積極的な働きかけを行っている。



森林環境譲与税の積極的な活用③

木祖村では積極的な上下流交流事業で培ったご縁のもと、様々な自治体への声掛けにより公共施設の木質化等に間伐材を利用いただいている。

今後も交流自治体を中心に木質化や木のおもちゃ利用など地域住民への波及効果を高めていけるよう、流域全体で推進していく必要がある。



愛知県東海市 学校の下駄箱



愛知県半田市 公園東屋



名古屋市下水道科学館カウンター

森林環境譲与税の積極的な活用④

このような取組を積極的に行っていることが名古屋市の目に留まり、森林環境譲与税を活用したい側（下流域：名古屋市）と使ってもらいたい側（上流域：木祖村）の思惑が一致し、令和4年6月14日、愛知県名古屋市と木祖村とで森林整備協定を結んだ。森林資源の循環を通じ、CO2削減や生物多様性、水循環の保全と地域活性化を図り、共に発展することを目的としている。

今後も「源流域を守ることが下流域の安全と環境を守ることにつながる」ことを広く発信し、水源保全の協力が広がっていくことを期待している。

交流の森 整備協定締結式の様子



交流を通して見えてくるものと今後の展開

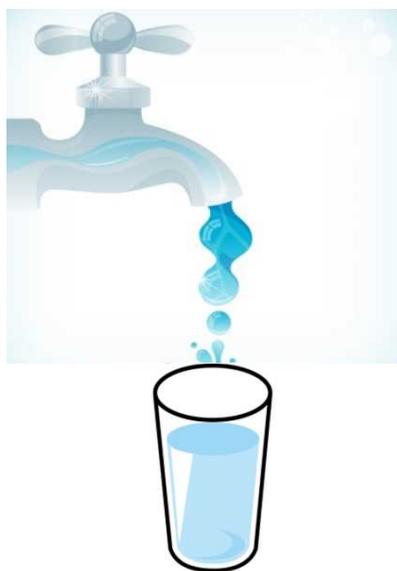
- 交流の絆は人と人がつくるもの（信頼関係）
- 交流事業からビジネス展開（日進市や知多市などへの物産展への積極的参加）
農産物や木工芸品などのブランド化、販路拡大推進
- 企業誘致、起業推進による働く場の確保
- 移住、定住、空き家対策との連携
- 木曽三川流域自治体の流域連携
（木曽三川・・・木曽川、長良川、
揖斐川の上・中・下流）
- 都市部の子どもたちに「木曽川さんありがとう」や「サマーとりっぷ」（名古屋市）、「親子水源地ツアー」（知多市、尾張旭市、一宮市）などを通じて水の循環、自然の営み、厳しさ、森の役割、環境保全など、体験を通じて源流域を知ってもらう



本日、水資源を通して皆さんと新しい繋がりを持たせていただきました！

蛇口から出る水道水は水源地域を守る人たちの思いが詰まっています！

水源地域を守る = 我々の生活を守ることです！



**ご清聴
ありがとう
ございました♪**



木祖村イメージキャラクター
源流の源気くん

資料編（木祖村）

お伝えしきれない部分を資料編として紹介します。

- 木祖村の様子 産業やイベント、ふるさと納税等（P20～）
- 名古屋市上下水道局との交流（P26～）
- 日進市との交流（P28）
- 愛知中部水道企業団との連携（P29）
- 木曾川源流の里 緑化交流事業寄付活動（P30）
- 木祖村友愛会（東海地区木祖村人会）発足（P31）

数多くの皆様との交流、連携により持続可能な展開を目指しております。

■木祖村の観光・産業■



「やぶはら高原スキー場」と夏のキャンプ等を中心とした「こだまの森」が主な観光地となっています。

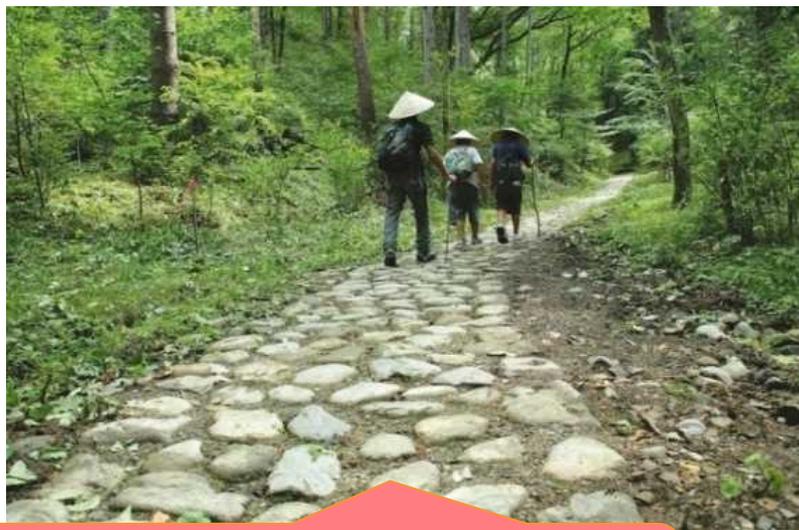
お六櫛・百草丸・おんたけ白菜・トウモロコシ・木工製品(キャンバス)などの製品が有名です。





平成の名水百選 水木沢天然林

日本で唯一縁結びの名を持つ
縁結神社(出雲大社の分社)



中山道木曾路を象徴する鳥居峠の石畳
(藪原宿～奈良井宿間)



■木祖村のイベント■

・やぶはら高原溪流釣り



・自転車ロードレース



・やぶはら高原ハーフマラソン大会



・奥木曾湖カヌー体験



・木曾川源流夏祭り



・全国日曜画家中部日本展



道の駅の様子（現在）

平成22年7月にOPENし、木祖村産や県内産の品にこだわった商品販売を展開。また令和元年に木祖村農産物加工センターも建設、稼働開始し村内の農産物を加工して幅広く活用できるスタイルが確立された。徐々に販路拡大もなされている。



木祖村のふるさと納税（状況）

制度開始当初は年間で数件の寄付であったが、世の中の納税ブーム、近年のコロナ禍という状況に後押しされたこともあり、令和元年度527件（11,493千円）の寄付、令和2年度は1669件（23,910千円）と前年度に比べて倍増した。令和3年度は1,918件（23,138千円）。

返礼品 人気ラインナップ



↑とうもろこし

御嶽はくさい→



←お六櫛

ワインクーラー



名古屋市上下水道局との交流

木曽川さんありがとう



サマーとりっぷ in 木祖村



名古屋市上下水道局との交流



なごや水フェスタ
鍋屋上野浄水場開放イベント



水源林保全体験研修



日進市との交流



日進少年野球との交流試合



育樹祭



にっしん夢まつり・にっしん市民まつり



上下流が連携した水源地域保全活動

ー 木曽広域連合と愛知中部水道企業団

愛知中部水道企業団の構成：
(豊明市、日進市、東郷町、長久手市、みよし市)

平成15年2月に愛知中部水道企業団と長野県木曽広域連合との間で、上下流が共同して水源かん養を目的とした森林整備の促進をしていく協定を結びました。
この協定を機に、上下流がより密接な交流を深め水源かん養と森林整備のあり方など、重要性を発信することが期待されました。

～木曽川の豊かな水を育む森林をめざして～

木曽川「水源の森」 森林整備協定推進事業



木 曽 広 域 連 合

主な経過

H12.8 「交流のきずな」調印

H13.6 企業団「水道水源環境保全基金」
(水道料金1円/m³) 積み立て開始

H15.2 連合と企業団が木曽川「水源の森」森林整備協定締結

H16.3 木曽広域連合が木曽森林保全基金の積立開始

H17.4 「水源の森」森林整備協定造林事業のスタート

「木曽川源流の里」 緑化交流事業寄付活動

「これからは下流地域でも水源地域の保全や流域全体の水質保全を推進していくことが大切」との思いから、日々緑化事業に取り組んでいる木祖村に、平成19年度から26年度までの間毎年30社を超える名古屋市内の企業様から緑化事業寄付金をいただきました。寄付や募金活動のほか、毎年水源の森に「カエデ」の植樹や育樹作業を行なっていただいております。

どんぐり募金活動



緑化活動(植樹・育樹作業)



紅葉したカエデ



「木祖村友愛会（東海地区木祖村人会）」発足

平成22年8月に東海地区にお住まいの木祖村出身を対象に「木祖村人会」が発足しました。

目的：会員間の情報交換

木祖村と会員間との情報提供

木祖村並びに会員相互の親睦を深める

木祖村発展に寄与する

会員：現在122名（木祖村出身者約50名）

活動：情報誌の発行、物産展の開催・参加

木曾川河川清掃活動、バスツアー等

令和5年に名称を「木祖村友愛会」へ改称

通常総会記念撮影



←村人会バスツアー→

